



ロマンを掘る

留萌では、三泊町や塩見町をはじめ市内のいたる所に、数多くの古代の遺跡が発見されています。わたくしたちの祖先が、留萌に移住してきた明治よりもはるかに遠い八千年前の昔から、今と変わらない暑寒連峰を南に眺め、豊かな自然の恵みの中でいろいろな文化を持つ人々が、留萌を舞台に平和に生活していたのです。遺跡を通して、遠い昔の留萌の姿を想い浮かべながら、古代のロマンを探してみましよう。

です。

土器は、食糧を煮たきするための人類最大の発明と言われ、縄文時代が土器使用の始まりです。

土器の形やつける文様に時代の流行があり、変化を続けながら、今から約三千年前まで縄文時代が続きます。しかし、同じ北海道の縄文

時代でも本州など南の文化や樺太・シベリアなど北の文化の影響を受けた地域差があります。

留萌の場合は、ある時代には北の文化、ある時は南の文化が見られ、ちようど南・北文化の接点にあつたように思われます。

縄文時代の初めは丘の上。やがて中腹、山裾へと進む場所が下つて約三千年前まで続き、小動物や魚、木の实などを食糧とした狩猟採集の時代です。



縄文前～中期文化圏

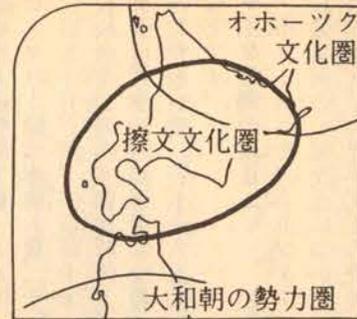


星かぶとの謎

その昔、留萌は西海岸でも有名な、アイヌ人との交易場所でしたから、鮭、昆布、鱈などの地元の産物と使わなくなったカブトと交換したのが、その後所有者のアイヌ人埋葬の時一緒に埋められたのではないかと考えられます。

たしかに、留萌のコタン（現在の元町方面）には道北の日本海側では相当に地位の高い有名な「コタンヒル」と呼ばれる首長がいましたので、この家系の人たちのことが頭に浮びます。

しかし、このカブトが使われた鎌倉時代、カブトをかぶる武士は身分の高い数少ない武将たちでありこれを一族の「家宝」とする武家たちが、かんとんに他人に手ばなすとは考えにくいのです。だとすれば、ちようど平安後期に起つた東北の前九年・後三年の役に巻きこまれた東北の豪族が、新天地を求めて留萌に逃れてきたのではないかと。謎ときはこれからです。



擦文・オホーツク文化圏

縄文時代 海ぞいの村

今から約二千年前になると本州では稲作がはじまり弥生時代になりますが、北海道は縄文時代と同じ狩猟採集が続き、弥生時代とは異つた文化が進みますので、「縄文時代」と呼びます。

この時代は、今の住宅が建つていると同じ平地に住み、特に海ぞいにあることや使われた道具などから海の産物への依存が特徴です。

三泊・塩見町の国道をはさんだ平地から、この時代の土器・石器が数多く発見されています。

特に、この後北式土器を使う人々が、やがて北海道のアイヌ人につながる文化を理解する上で、大切だと言ふ学者もいます。



三泊村のむかし (想像図)

この時代も、本州の弥生文化の影響を受けた道南を中心とする「恵山式文化圏」と、北海道の縄文時代の影響を残した「後北式文化圏」がありますが、やはり日本海側では留萌あたりが文化の接点ではないかとみられるが発見されています。

のはじまりです。隣まちの小平町で大規模な発掘調査が行われたことは新聞紙上でご覧になった記憶があると思いますが、あの遺跡が擦文時代のもので、留萌でも、旧留萌川の河口

縄文・オホーツク文化

河ぞいの村と侵入者

これまでの狩猟採集の生活から、農耕を一部とり入れた文化が北海道に広がります。約一千年ほど前、擦文時代

にあたるコタン浜や、小河川のオム口沢、三泊などで発見されるように、川ぞいに住みサケ・マスを中心とする漁撈と河岸段丘にソバ・ヒエ・アワなどの栽培を行っているのが特徴です。

道具も石器はほとんどなく鉄器が使われ、編み物などが発見され、かなり高い文化を



コタンヒル

持っていたことが知られているのはもちろん、次に続くアイヌ文化の原形として注目を集めていま昔、留萌川も大きな河です。この時代の遺跡が数多く考えられますが、大正時代に切替えられたためまだよくわかっていません。ただ、北海道の著名な歴史家河野常吉さんが明治三十年留萌市を訪れた時、現在の市街地に遺跡があつたと、記録に残していますので、旧河川ぞいの場所には注意する必要があります。

また、この時代北海道にはこれまでの文化とまったく違つた「オホーツク文化」を持つ民族が樺太を経由して北から入つて来ます。

お問い合わせ：教育委員会へ

ここに掲載された内容の問い合わせやご意見。お持ちの土器・石器についてのご連絡をお待ちしています。市教育委員会社会教育課へどうぞ。

文化財とは

文化財は、人々が長い歴史の中でつくり出し、祖先から伝えてきた文化遺産や学術的価値の高い動植物、地質鉱物などをいいます。特に、土に埋もれている

古い時代の土器や石器などは「埋蔵文化財」といひ、発見した場合は、文化財保護法により市教育委員会に届出なければなりません。留萌市の古代文化を知る貴重な学術資料として市民のみなさんの理解と協力をお願いいたします。